The Tooth Preparation

補綴修復治療の成功を目指した支台歯形成

岩田 淳著



Chapter 1

支台歯形成の基本的原則

支台歯形成とは、補綴装置を口腔内で適正に調和・機能させるために必要な治療ステップの1つである。実際の臨床では、支台歯やその周りを取り巻くさまざまな状況に対応して、適正な支台歯形成を行う必要性がある。本書ではそのための知識とテクニックを中心に読者諸賢に紹介していく。

本章では、クラウンの支台歯形成の基本的原則について、以下の項目について解説する.

- ・支台歯の生物学的要件(歯,歯髄,歯周組織).
- ・フィニッシュラインの設定位置.
- ・支台歯の維持形態・抵抗形態。
- ・マージンデザイン
- ・支台歯形成に必要な器具・器材。

支台歯の生物学的要件

支台歯形成において考慮すべき生物学的要件は、① 歯(支台歯の残存歯質の量と質)、② 歯髄、③ 歯周組織との関係性である.

Clinical Case

外科的歯冠長延長術を行った後.

ラミネートベニアとクラウンで補綴治療を行った症例

症例概要:患者は30代の女性.上顎前歯部の審美障害を主訴に来院. 1 は広範囲にわたるコンポジットレ ジン修復治療,2 は失活による変色,21 クラウンは不適合および色調の不調和が認められた。1 は歯冠形 態および表面性状の改善のため、ラミネートベニアによる補綴治療、212 は感染根管治療およびクラウン による補綴治療を行うこととした. 上顎4前歯は歯冠長が短く, 歯頚側方向に歯冠長を延長することを計画







図 58 ~ 60 初診時口腔内および口唇写真. 21 には不良補綴装置, 2 は歯髄の失活による変色を認めた

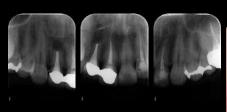


図 61 同, デンタル X 線写真



図62 不良補綴装置除去後. 歯肉縁下 図63 再根管治療後, ファイバーポス 深くまで支台歯形成が行われていた



トコア築造および概形成を行った



した



図 64 対合歯とのクリアランスを確保 図 65, 66 2 再根管治療後, 21 のフェルールの獲得および上顎4前歯の歯冠長を歯 頚側に延長するため、外科的歯冠長延長術を行う予定とした

下顎右側臼歯部の支台歯形成におけるポジショニング



図31 下顎右側臼歯頬側の支台歯形成時のポジショニング. 術者は8時に位置し、患者の頭位は左側に傾ける



図32 下顎右側臼歯頬側の支台歯形成時



図33 下顎右側臼歯舌側の支台歯形成時のポジショニング. 術者は1時に位置し、患者の頭位は右側に傾ける



図34 下顎右側臼歯舌側の支台歯形成時



図35 下顎右側臼歯遠心の支台歯形成時のポジショニング. ミラーテクニックを使用し, 術者は8時に位置し, 患者の頭位は左側に傾ける



図36 下顎右側臼歯遠心の支台歯形成時(ミラー像). ミラーを支台歯斜め遠心から遠心直下に位置づける

上顎中切歯のラミネートベニア形成

本項では上顎右側中切歯人工歯を用いてラミネートベニア形成ステップを解説する. 基本的なラミネートベニア形成ステップとして、次のような手順で行う場合が多い(図 $25 \sim 53$).

- ① 切縁および唇側面のガイドグルーブの付与および概形成.
- ② 歯頚部および隣接移行部の概形成.
- ③ 鋭縁部の除去および仕上げ形成.



図25 支台歯形成前の状態. 事前にシ 図26 同, 咬合面観 リコーンインデックスを作製しておく と、形成量の確認を行うことができる





図27 矢状面シリコーンインデックス の作製を行い, 適合を確認した状態



の作製を行い, 適合を確認した状態



(1.0 mm) を付与した



図 28 水平面シリコーンインデックス 図 29 切縁側に3本ガイドグルーブ 図 30 切縁側にガイドグルーブを付与 した唇側面観



Chapter 18

補綴装置の装着

はじめに

近年、補綴修復治療の多様化により、その装着方法においてもさまざまな要素を考慮し、適正な方法を選択する必要がある。補綴装置と支台歯の機械的嵌合力が大きく影響するクラウン、ブリッジや、接着が重要となるラミネートベニアやオーバーレイ(オクルーザルベニア)などで、装着方法も大きく異なってくる。本章では以下の点について解説する。

- ・支台歯において考慮すべき事項
- ・補綴装置において考慮すべき事項
- ・ラバーダム防湿.

支台歯において考慮すべき事項

支台歯において考慮すべき事項として,以下のものがある.

- ・支台歯軸面のテーパー
- ・フィニッシュラインの設定位置
- ・支台歯色
- ・支台歯の処理.